

手術室で災害訓練実施

参加者：麻酔科医・外科医・看護師・サプライ職員・臨床工学技士

OP室 防災対策



6/4 12時
兵庫県南部
震度6以上地震発生



準備

シナリオ貼って



ミーティング

患者設定：開腹結腸手術
吻合終了後



いつもの手術



訓練災害発生



ものすごい揺れ！！

扉の解放
自分自身を守る 無影灯を動かさず
患者の体を押える



CEは機器類の
チェック



指示

手術続行決定
最短で終わらせる



サプライ職員集合

リーダー看護師
安否確認、情報伝達、収集



点滴台の転倒予防
麻酔器、
気道確保の確認



停電

明かりが復旧
しないと何もで
きない(研修医)



ガーゼ、機器類の
カウント



リーダー看護師
情報収集
ご家族への情報提供



抜管



皆様お疲れ様でした



みんなで振り返り

(改善点・課題)

- ・ 次は役割を変えて定期的に訓練が必要。(看護師)
- ・ 麻酔器にも懐中電灯がいる。(看護師)
- ・ バッテリー搭載のモニターが必要。(CE)
- ・ ストッパー付きの器械台が必要。(看護師)
- ・ 日頃からME機器のロックが必要。(看護師)
- ・ アンビュバックが足りてない。(麻酔科医)

(不安)

- ・ 自分の身を守ることと患者・スタッフの安全を守るとはどのラインから何を優先するか難しい。(研修医)
- ・ 実際、手術中に続行の判断を下せるか周りの状況も把握しないとイケないので難しいと思った。(術者)
- ・ 自分が冷静でいられるのか。(リーダー看護師)

(感想)

- ・ 他職種が集合しての訓練であり、その立場からの意見・疑問が出て意義のあるものだった。
- ・ 耐震の整った建物で働きたい。
- ・ 明かりが復旧しないと何もできない。(研修医)
- ・ 何をやるにも声出しが必要。
- ・ 訓練することで根拠のある行動が理解でき、新たな発見もある。
- ・ 術野の清潔を保ったままどれだけ行動できるかで、できることが変わっていく。



今回、関わったメンバー全員が、危機意識を持って参加し、根拠ある行動が理解できた。
今後も定期的に訓練を行い、改善点・不安な所をクリアにしていきたい。

文責：看護部 濱崎弘子

西宮市立中央病院
Nishinomiya Municipal Central Hospital